

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成22年10月14日 (2010.10.14)

【公表番号】特表2010-504784(P2010-504784A)

【公表日】平成22年2月18日 (2010.2.18)

【年通号数】公開・登録公報2010-007

【出願番号】特願2009-529750(P2009-529750)

【国際特許分類】

A 6 1 F 9/007 (2006.01)

A 6 1 F 2/14 (2006.01)

A 6 1 L 31/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 9/00 5 5 0

A 6 1 F 2/14

A 6 1 L 31/00

【手続補正書】

【提出日】平成22年8月26日 (2010.8.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

目と下鼻道との間に延在するように構成された涙管ドレーンであって、

(a) 一端に第 1 フランジを有する細長い中空の剛性管と、

(b) 先端を構成する前記管の反対側端から所定の距離の位置で前記管に結合された、可撓性かつ弾力性の折り畳み可能な第 2 フランジと、
を備え、

前記管の一部分は前記第 2 フランジから突出し、

前記管及び前記第 1 フランジは剛性材料から成り、

前記第 2 フランジは可撓性材料から成り、該第 2 フランジは、患者内の組織通路を通じて前記ドレーンを挿入する間は前記先端から遠い側に折り畳まれるために十分に柔軟であり、前記下鼻道に入った場合には開くために十分に弾力的である

ことを特徴とする涙管ドレーン。

【請求項 2】

前記第 2 フランジは、前記管の断面直径と比較して、前記管の長さ方向に平行な方向に比較的小さい所定の厚さを有し、

(i) 前記第 2 フランジが前記管に対して平らに密着した場合における、前記管と前記第 2 フランジの両方を含めた全体の断面直径と、(ii) 前記管のみの断面直径との比が最小であることを特徴とする請求項 1 に記載の涙管ドレーン。

【請求項 3】

前記管の前記反対側端からの前記所定の距離が、約 1 mm であることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の涙管ドレーン。

【請求項 4】

前記第 2 フランジは前記第 1 フランジよりも大きい直径を有することを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれか一項に記載の涙管ドレーン。

【請求項 5】

前記第 2 フランジは、屈曲していない状態で放射面に延在することを特徴とする請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の涙管ドレーン。

【請求項 6】

前記剛性材料は、ガラスまたはプラスチックから成ることを特徴とする請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の涙管ドレーン。

【請求項 7】

前記管の前記先端が角取りまたは面取りされていることを特徴とする請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載の涙管ドレーン。

【請求項 8】

前記第 2 フランジは、前記管への結合部で、該結合部の外延部よりも厚みをもたせるために、拡開されていることを特徴とする請求項 1 ~ 7 に記載の涙管ドレーン。

【請求項 9】

前記第 2 フランジは、シリコンまたは柔らかいプラスチック材料のような、生体適合性材料から成ることを特徴とする請求項 1 ~ 8 に記載の涙管ドレーン。

【請求項 10】

前記第 2 フランジの断面形状が複数のアームを備えることを特徴とする請求項 1 ~ 9 に記載の涙管ドレーン。

【請求項 11】

前記複数のアームが奇数個のアームから成り、さらに要すれば、各アームが所定の厚さの材料により相互接続されていることを特徴とする請求項 10 に記載の涙管ドレーン。